「にこにこ たいよう」はじける笑顔

（一財）兵庫県学校厚生会写真公募展 審査員特別賞 森井禎紹賞「にこにこ たいよう」小川幸代さん（たつの市立神岡小学校）撮影

【審査員の森井さんのコメント】
図工の時間に思い思いに描いた太陽。出来上がった絵を両手に掲げて「どうだ！」と言わんばかりの子どもたち。仲の良いクラスなのでしょう。教室内の雰囲気もよく伝わってきます。一人ひとりの表情もいいですね。

教育ひょうご
発行所 神戸市中央区中山手通４丁目10－８
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合代表者 泉　雄一郎
編集人 川原芳和
電話 050（3538）2346
１部15円　年定価360円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）
2017/1・1
No. 1920
新年号

兵庫県教職員組合
執行委員長　泉雄一郎

兵教組結成70年を契機にさらなる運動の前進を！

2017年の年頭にあたり、兵教組本部執行部を代表し、組合員・ご家族の皆様にごあいさつを申し上げます。

兵教組は、本年、結成70年を迎えます。1947年7月10日、明石女子師範付属小学校講堂で、兵庫県教職員組合結成総会が開催されました。県内各地から、よれよれの国民服やモンペ姿で、食糧を入れたリュックサックを背負った代議員415人が参集し、議事では、「綱領」「規約」「役員」「予算」「労働協約締結」「機関誌」「日教組加盟」などを決定したと、当時の記録にあります。

私たちの先輩が築いてこられた運動の成果を語り継ぎ、教職員の協力・協働によるこころの通いあう学校づくり、給与水準の向上、諸権利の拡充、教育文化・社会貢献事業の推進、国際交流の深化をめざしてまいります。

また、本年は、兵庫教育文化研究所の設置40年にもあたり、蓄積された兵庫における教育実践の継承をはかりつつ、日本国憲法・子どもの権利条約の理念を生かす教育改革の実現をめざしてまいります。「いきるつながる みちひらく」をキーワードに、ひょうご教育フェスティバル等の研究成果をふまえて、保護者や地域の方との社会的対話をすすめていきましょう。

5月にはフィンランド教育文化交流団を受け入れ、8月にはフィンランド・OECDへ兵庫県の教職員を派遣する予定です。これまでの相互交流を通して学んだ「学力の国際標準」もふまえ、「生きてはたらく力」「人とつながる力」「学びつづける力」をはぐくむ教育研究活動をすすめ、子どもの最善の利益を追究してまいりましょう。

4月から県費負担教職員の給与負担や学級編制基準等の権限が神戸市へ移譲されます。これにともない、組織力・運動の低下を招かないように、神戸市教職員組合をはじめ、県内の地域単位教職員組合をもって組織する連合体として兵教組を改編していきます。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

兵教組は、教職員の実践がゆたかなものとなるよう、「生きる力」をはぐくむ教育施策の充実、勤務時間の適正化、教育予算・教育条件の整備・拡充にむけ、引き続き「参加・提言・改革」の運動をすすめます。

運動の基盤は組織力であり財政力です。「組合活動の見える化」運動にとりくみ、新年度も新規採用教職員を中心に組織拡大・加入促進にとりくんでいきましょう。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

阪神・淡路大震災22年　児童・生徒、教職員　追悼の夕べ

1月17日（火）17時30分から、ラッセホールで「阪神・淡路大震災22年　児童・生徒、教職員　追悼の夕べ」を開催します。

兵教組はこれまで、震災で犠牲となった児童・生徒、教職員の方々のご冥福をお祈りするとともに、震災を語り継ぎ、その教訓を生かす教育改革を推進する決意を新たにするため、追悼式・追悼の夕べを開催してきました。

兵教組として、2004年に『いのちと教育ー1・17をわすれない―』、兵庫発の防災読本『いのちやさしさ　まなび』を発刊しました。2013年に兵庫教育文化研究所に防災教育部会を設置し、20年目の2015年には、研究所・所報『子どもと教育』の臨時増刊号として、国際シンポジウムや防災教育の実践などをまとめた『阪神・淡路大震災20年　防災教育アーカイブ』を発刊しています。

東日本大震災や熊本・大分での地震をはじめとする自然災害では、発生当初より被災地の教職員と連絡を取り合い、子どもたちの心のケアや教育の創造的復興にむけて、ボランティアの派遣、義捐金の贈呈や前記の刊行物の提供など様々な支援をおこなってきました。特に福島県に対しては、震災遺児奨学金への支援などを5年間にわたり続けました。今後も、阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、被災地の教育の創造的復興にむけ、兵庫だからこそできる継続した支援にとりくんでいきます。また、これまでの実践に学びながら、防災文化の創造と防災教育の充実をはかり、広く発信し続けていきます。

追悼の夕べでは、神戸市立桂木小学校合唱団による「しあわせ運べるように」他4曲の追悼の歌、森洋樹さん（芦屋市立山手小学校）による語り、KOBE CORY BANDによる金管アンサンブル演奏を予定しています。

親族の名前が刻まれた銘板を前に思いを馳せる遺族の方々。（昨年度の追悼の夕べ）

ドキドキ

篠山市立今田中学校　一年
大西　未恭

初めて制服を着た時の「ドキドキ」
初めての自転車通学の「ドキドキ」
初めて校門に入る時の「ドキドキ」
入学式の「ドキドキ」
初めて教室に入る時の「ドキドキ」
初めて先生に出会う時の「ドキドキ」
初めて先輩に出会う時の「ドキドキ」
初めて部活をする「ドキドキ」

この「ドキドキ」を忘れない
これから感じる「ドキドキ」を
楽しみながら生きていく

もちつきだ 力を入れて ぺったんこ
淡路市立大町小学校　四年
畠山　静香

（こどもの詩と絵　第36集より）

第66次県教研（ひょうご教育フェスティバル）

「力のある学校づくり～格差の現状とその克服」

記念講演（要旨）　大阪大学教授　志水 宏吉さん

全ての子どもをエンパワーする学校
教職員がエンパワーされ、保護者・地域の方々とで子どもをみる

1 格差の現状「つながり格差」仮説

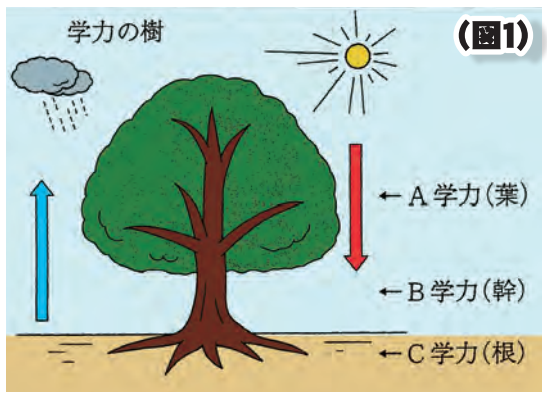
2007年、全国学力・学習状況調査がスタート。成績上位が秋田県や福井県など日本海側の各県だったことと、大阪が下から二番目だったことに驚きその原因を調べ、見出したのが「つながり格差」の考え方だ。

1964年の学テと07年調査成績の変化要因を分析した結果、①離婚率、②持ち家率、③不登校率の3つが小・中学生の点数に一番強く結びついていた。しかし、離婚している家庭の子どもたちの学力が押しなべて低いわけではない。①③が高く、②が低いと学力がしんどい傾向にあるということ。

①③は、家族・家庭と子ども、学校や教職員と子どもとのつながりが細くなっていると捉えた。②は、成績上位地域の人々は、緊密な地域環境で暮らしており、子どもにとっての近隣社会、地域社会とのつながりの豊かさを表していると考えた。しかし、地域と子どものつながりは緊密だが学力は厳しい沖縄の例から、つながりの質が関連していると考える。学校で学習することの大切さが地域によって違い、つながりの量や質が子どもたちの学びに強く結びつくのではないか。

2 学力の構造「学力の樹」

子どもの学力を樹（図1）ととらえた場合、3つの学力に分かれる。葉は、日々子どもたちが学びとっていく事柄の学習事項で、学校では知識・技能という。例えば、漢字の読みや意味は知識で、丁寧にきれいに書くことは技能だ。光合成をして養分を生み出す植物のように、子どもたちも学びの中から何かを生み出すイメージだ。



（図1）

葉＝知識・技能
幹＝思考力・判断力・表現力
根＝意欲・関心・態度

これらは教員が子どもたちを評価するときの主要な観点に対応しており、学力とはこの三位一体と捉えることができる。

3 根っこの学力を育てる

根を、①自尊感情、②学習習慣、③目的意識、の3つの言葉で捉える。樹の例をさらに追究していくと、自尊感情は根冠であり、学習習慣は根毛、目的意識は根冠や茎などが成長するときにある成長点となる。

「良い学習習慣を育む」

子どもたち全員に確かな学力を身につけてほしい。それを保障する一番のポイントが、良い学習習慣を育むこと。この習慣が意欲よりも大事だと思っている。

いくら意欲を掻き立てるような授業をしても、習慣が伴わない場合、その働きかけは瞬間的、断片的、表層的に終わる。

勉強ができた、分かった、いい点が取れた、先生に褒められた、友だちに教えたらありがとうと言われた、家でご褒美を買ってもらえたなど、ポジティブな学習経験を積むと良い学習習慣が身につき、さらなる学習意欲につながる。基本は家庭だが、習慣化されていない子どもたちへの習慣づけを、学校、学級の中ではかってほしい。

4 学力格差の克服―「効果のある学校」研究

同和・人権教育で大阪をリードしてきた松原三中校区は今、**市民性教育**を開拓している。子どもが地域に参画する、**「社会参画力」**をキーワードに社会に働きかけるような人間を育てるというコンセプトだ。

「見える学力、見えない学力」

また、葉はペーパーテストではかれる見える学力だ。対して見えない学力が根であり、見える学力の下支えをしている。根は、その子どもの個性や持ち味、或いは性格や性分、癖など。その子（樹）の個性がそもそもあり、兄弟姉妹であっても同じではない。この学力の根は、意欲・関心・態度としてにじみ出てくるという見方で教員は評価している。

では、幹の学力とは何か。今、注目されている思考力・判断力・表現力に相当するのではないか。

学力の樹の絵にある上下の矢印が教育的な働きかけ。これが行き過ぎるとスパルタ教育や体罰であり、学校でよく使う「指導」は、葉を茂らせるトップダウンの働きかけだ。

ゆとり教育と言われた時代、根を支えることが重視された。これは「支援」で、授業づくりは子どもの意欲から出発し、調べる・発表する・批評するというもの。学力低下論が勃発したが、子どもを育てるとき、強い指導性を発揮することも日々の支援活動も共に大事であり、このバランスの問題ではないか。

5 「力のある学校」のスクールバスモデル

しんどい層の学力を支えているかどうかの枠組みで分析した結果、8つの要因が浮かび上がり、これをスクールバスに例えた。

全ての要因のうち、①②など2項目ずつに共通性がある。**「力のある学校」**では、学校にいる全ての教職員が同じ方向を向き、同じような気持ちで子どもたちに接する。こういう校内の文化、集団のあり方が成立していればうまくいく。

公立学校の一番の特徴であり大事なポイントは多様性だ。いろんなバックグラウンド・立場・力を持った子どもたちが基本で、職員室も老若男女と様々であることが子どもにとっては良いことではないか。しかし、学校は集団ではなく共通の目標のもとに働く組織であり、学校の目標は、子どもたちをどこに連れて行くかにある。

タイヤの前2の③④は教育指導。教職員が子どもたちへの指導・支援する局面を豊かなつながりを生み出す生徒指導、全ての子どもの学びを支える学習指導とした。

まずは教職員と子どもたちとのつながりが基盤。それを保障するのが、一致した方針のもとでのきめ細やかな指導だ。次に子どもをエンパワーする集団づくり。教職員がはたらきかけ、子どもどうしの関係をどれだけ練り上げ、高めていくかが重要だ。このスクールバスの前輪を回すのは、世代交代で入ってきた若い世代が主力となっている。

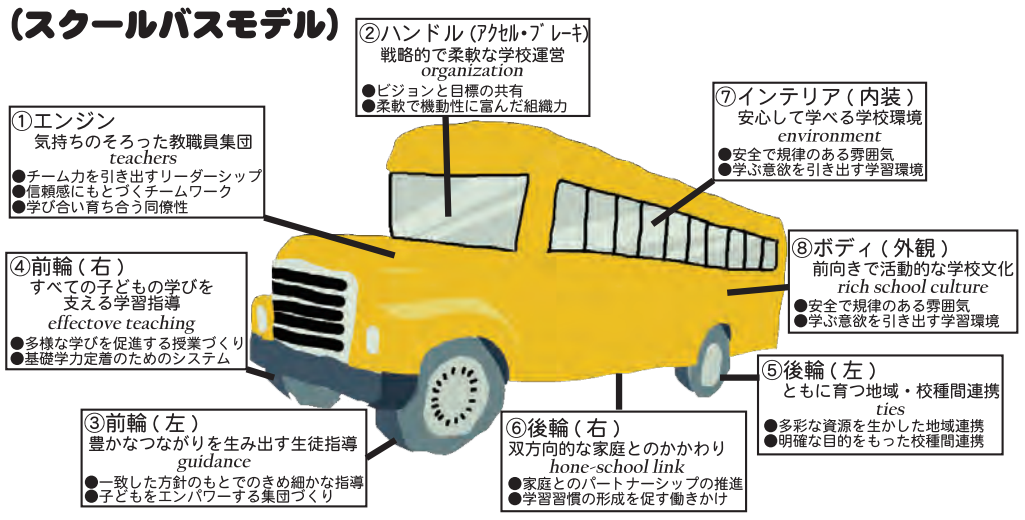
⑤⑥は外部連携のタイヤであり、⑦⑧は学校環境や学校文化のバスの内装や外観になる。

これらはどの学校にもあてはまるので、皆さんの学校の現状を把握し評価する際の軸としていいのではないか。

しんどい子に学力をつける7つのカギ
―大阪の「効果のある学校」―
①子どもを荒れさせない
②子どもをエンパワーする集団づくり
③チーム力を大切にする学校運営
④実践志向の積極的な学校文化
⑤地域と連携する学校づくり
⑥基礎学力定着のためのシステム
⑦リーダーとリーダーシップの存在
（出典）志水宏吉『学力を育てる』岩波新書 2005年、64-169頁

また、ここでは低学力層が少ない。低位層に対して手厚く、学力面でも成果を上げている学校をいくつか見出し、それらに共通する特徴を調査した。それが**「しんどい子に学力をつける7つのカギ」**であり、これをバージョンアップさせたものが、**「スクールバスモデル」**だ。

（スクールバスモデル）



6 力のある教育委員会―大阪府茨木市の事例

茨木市の教育委員会が学力向上策のスローガンを**「低得点層をなくすこと」**と打ち出した。兵庫の阪神間と同じく、小学校から中学校にいく時、主に成績上位層の1割強が私学に進学する。そのため、中学の学力は全国平均よりちょっと厳しいところからのスタートとなる。しかし、この低得点層をなくすとりくみをすすめていくと、右肩上がりに学力低位層は減っていった。市全体でこのように結果が出ているところは他に知らない。なぜこれほど結果が出たのか。

以前、根の学力が大事と話したところ、茨木市バージョンの4つの力を編み出した。根を育てることで結果的に点数、学力が伸びる形に持っていけた。

今のような時代、教育行政のあり方や教職員組合は非常に大事だ。全ては子どもたちのために、組合で頑張った人が、管理職や行政にという循環が生まれてほしい。この学力向上の動きの中で、萎縮したり諦めてしまっている地域もあるが、兵庫は非常に士気が高く、今までの延長線上でのとりくみを展開できる状況がある。私も皆さんと一緒に**すべての子どもたちに確かな学力を身につける**ための**「力のある学校づくり」**をキーワードに社会に働きかけるような人間を育てるというコンセプトだ。

お正月ファミリーパズル　まちがい探し

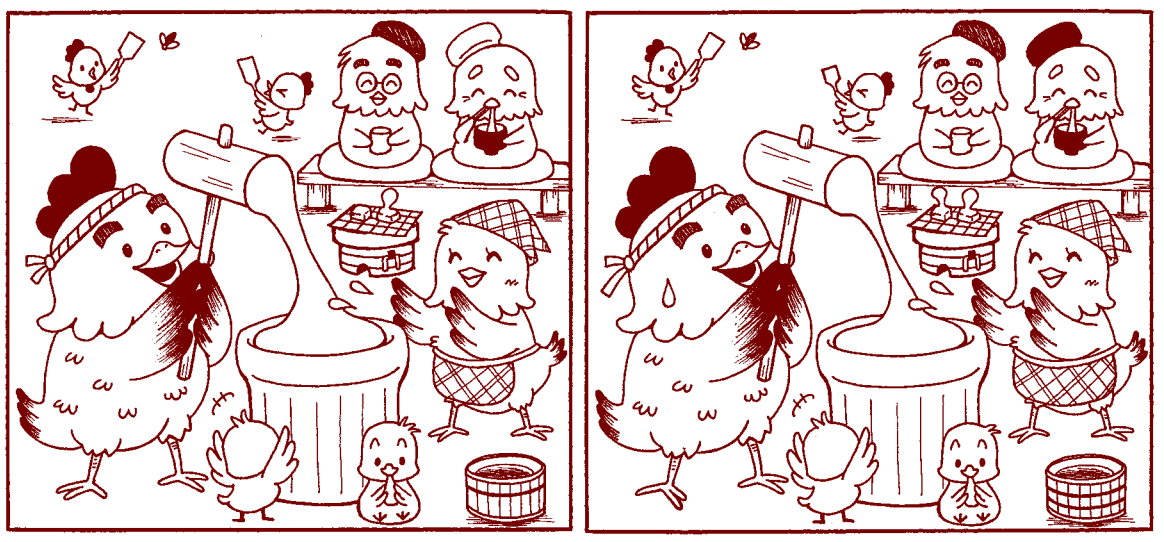
パズル制作：ひろ みよこ

右と左の絵をよく見くらべると、違っているところが10ヶ所あります。

どちらかの絵に10ヶ所赤丸を入れ、切り取ってはがきに貼って送ってください。お名前、年齢、支部名、住所（郵便番号も）を明記の上、ご応募ください。また、本紙の感想などもお寄せください。20名様に粗品を差し上げます。

締め切り：1月31日（消印有効）

あて先：〒650-0004　神戸市中央区中山手通4-10-8ラッセホール4F「教育ひょうご編集部」



あけましておめでとうございます

兵政連（議員団）一同